

昭和学報

昭和女子大学
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂
03(3411)5118
編集発行人 鈴木 円

まだある！ もうない！

図書館長 古川 眞人

文化と学問の秋、一月の到来。過去を振りかえり、元旦から数えるとも一年もあと少し、たった一か月でもう終わりと思ふか。それとも、未来に目を向けて、後期の講義・演習がスタートして、まだ一か月、前進の開始だ、よし！ 出発しようと思ふか。捉え方ひとつで行動は大きく変わってこよう。コップ半分まで入った水を見て、まだ半分あると見るか、もう半分しかないと見るかは、認知の仕方の差異を示すよく知られたエピソードである。

ポジティブな期待やネガティブな期待は、その後の人の思考や感情や行動に及ぼす最も重要な決定因であるといえる。あなたの実際の年齢ではなく、今現在、何歳だと思えますかという主観的年齢を問われると、多くの人は実際よりも若い年齢で回答する傾向がある。心身ともに健康で幸せを満喫している人は、このような楽観的なバイアス(偏り)を持って認

表：前向きな言葉で心にスイッチを！

- ◆ ピンチ → チャンス
- ◆ 計画性がない → 土壇場に強い
- ◆ 存在感がない → 周りにとけ込める
- ◆ 臆病 → 慎重
- ◆ 神経質 → よく気がつく
- ◆ 雑 → 細かいことにこだわらない
- ◆ 飽きっぽい → 好奇心が旺盛
- ◆ せっかち → エネルギーが豊富
- ◆ 説得力がない → 相手の考え方を尊重
- ◆ 太り過ぎ → 恰幅がよい、デラックス
- ◆ 加齢臭 → 華麗臭：年を重ねたものだけが放てる芳醇な香り

知するという知見が明らかになっていく。では課題や目標の達成という面ではどうだろうか。課題に取り組みるとき、将来良い結果が得られるという楽観的な期待は、目標達成の過程において、たとえ困難に出会っても諦めることなく積極的に活動し、最終的には優れた結果をもたらすという知見が積み重ねられてきている。例えば、ダイエットの継続や健康維持のための運動習慣、生活

今月の昭和学報は

インタビューシップ報告 …………… (2)

教職員に聴く 光葉博物館 …………… (3)

初等教育学科
「館山プログラムを実施」 …………… (4)

この点については、実証的なデータが極めて乏しいのが実状である。ここで注意しなければいけないことがある。一口にポジティブな期待といっても期待レベルの程度の違いと一般性についてである。いつでも、どんな出来事でも、実現すべく、意義があり、価値ある目標であるならば、真の楽観主義者は、障害に出会っても打ち負けることなく努力し続ける。

他方、悲観主義者は、将来良いことなんか起きるはずがないと信じているので、少し具合の悪いことが起きるとすぐに諦め、脅威に打ち勝ち挑戦したりする気にはならない。こうした、長期間にわたるパーソナリティ傾向としての楽観性は、悲観性に比べて、優れた心理資源であることは間違いない。しかし、短期間の眼前に迫っている日常的な個々の課題に対しては、最悪な結果を想定して臨む悲観的なアプローチと最高の結果を想定して臨む楽観的なアプローチの間には、課題の成績に顕著な差異が見られていないのである。このことは、湧き出すポジティブ・ネガティブ感情を条件とし

日中友好大学生訪中に参加

「日中友好大学生訪中団」は、日中間の相互理解を深めることを目的に、日本大学生を中国へ派遣するプログラムで、日中国交正常化四五周年の今年は、東京大学などから五〇名の大学生が派遣された。本学から二〇名の学生が参加した友好協会分団は八月二十六日から九月二日まで、主に北京と成都の街を視察した。万里の長城や故宮博物院などの世界遺産見物に加え、日中の大学生として、今後の日中関係について共に考えることができた。メディアを通してではなく、実際に自分の目で見て感じた中国は、全てにおいて大きくて、優しく、実際に自分の架け橋になることができれば、と強く思う。(英コミ 波田野ほか)



光葉博物館秋の特別展 昭和女子大学附属昭和高等学校 スーパーグローバルハイスクールの取り組み

11/6(木)～12/2(日)

本学附属昭和高等学校は、平成二六年度に文部科学省から「スーパーグローバルハイスクール」の指定を受け、(SGH)の指定を受け、「大学や実社会と連動させたデュアルグローバルプログラム」という研究開発構想を推進し、女性グローバルリーダーの育成に取り組んでいる。本展はその成果を公開する教育普及活動の一環として開催する。

今回は、「サービスマーケティングの取り組み」と「スーパーグローバル」(SG)グループが四つのLABOに分かれて行う「課題解決プロジェクト」の活動を紹介します。これらの活動は大学や企業からのアドバイスを得るなどの連携プログラムから成り、大学生もボランティア活動に参加したこの展示には、大学生にとっても自身の生き方・歩み方について考えるヒントがある。特に夏季海外研修で訪れたアメリカ、フィンランド、カンボジア、タイでの実地体験に注目していただきたい。秋桜祭では、高校生によるギャラリートークが行われる。(光葉博物館)

昭和高等学校 SGH スーパーグローバルハイスクールの取り組み



LABO 1 企業や個人で活躍する女性グローバルリーダーの研究

LABO 2 日本人女性のジェンダーギャップの研究

LABO 3 海外で活躍する女性リーダーの研究

LABO 4 海外女性の社会進出支援

Service Learning

インターンシップ報告

◆フェデックス エクスプレス

私は、国際貨物輸送のフェデックス エクスプレスで、八月五日から九日までの約二週間のインターンシップに参加した。大変充実した二週間であつた間に過ぎた。



配達業務のOJTを受ける市川さん

私は、このインターンシップを通して、主に二つのことを学んだ。一つ目は、物流業界についてである。上屋業務や通関業務、配達業務のOJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)を通して、荷物がお客様のもとへ届けられる過程を学び、物流についての知識を深めることができた。物流業界に抱いていた重労働というイメージが変わり、チーム全体が一つとなつて仕事に取り組むことが物流の大きな魅力だと知った。二つ目は、チーム力である。多くのグループワークやプレゼンテーションでは、他大学の学生と一緒に一つのこ

◆株式会社岡村製作所

私は株式会社岡村製作所で、営業のインターンシップに参加した。岡村製作所は大手オフィス家具メーカーで、オフィス家具以外にも、お店の什器や、物流に関わる機械も製造している。インターンシップ期間は五日間で、私はオフィス家具の営業同行を主に体験さ

とに取り組み、発表することで、チーム力を身に付けることができた。インターンシップを通して尊敬できる仲間に出会えたことも大きな財産になった。
(英コミ 市川実咲)



見積書の作成体験をする大橋さん

◆大成建設株式会社

私は八月二日から九月一日までの二週間、大手総合建設会社である大成建設株式会社でのインターンシップに参加した。働き方改革の提案、セミナーやイベントの紹介など

ども行っている。営業同行の他に、岡村製作所のショールームや納入先の見学、セールストークのロールプレイング会にも参加した。期間中に五、六名の社員の方に同行し、移動時間などにたくさんお話を伺うことができ、とても充実した時間を過ごすことができた。
(心理 大橋めぐみ)



パースを作成する飛田さん

私は設計二部という、主に空港の意匠設計を行っている部署に配属された。環境デザイン学科では建築を学んでおり、将来的には建物のデザイン設計を仕事にしたいと思っていた。インターンシップの期間中は設計の過程やコンペティションにおけるプレゼンテーションの仕方などを教わった。また、資料として建築予定のモデリングのパースを制作した。同社で使用しているモデリングソフトの使用は初めてであったため、大変だったが、手厚くサポートして頂いたおかげで完成させることができた。自分で画面や色合いを考えて制作し、確認して頂くなど、実際の働き方を体験させて頂いた。大学では学べない仕事を、奥深さを感じることもでき、とても良い経験となった。この経験を活かし、今後は自分の将来を見据え、勉学に励んでいきたい。
(環境 飛田知美)

先哲の慰霊祭

一〇月五日、先哲の慰霊祭を行った。式には、坂東眞理子理事長・総長、金子朝子学長をはじめ、諸先生方、大学学友



会執行部、附属生徒・児童・園児の代表者が参列した。まず、逝去された先生方のご紹介があり、理事長講話、献花等に続き、参列者全員で黙祷を捧げた。亡くなられた先生方への追慕の念と共に、学園の創立当初を思いつつ、今後の学園発展の精進を誓い合った。

本年先哲之碑にお祈り申し上げた先生方は、平成二八年七月一日から二九年六月三〇日に逝去された非常勤・退職者を含む教員、または未合祀の教員で次の方々である。

- 永岡 敦 先生 元 外国語科 専任講師
- 佐野 武仁 先生 元 環境デザイン学科 教授
- 野々山 三枝 先生 元 近代文化研究所 専任講師
- 内須川 洸 先生 元 心理学科 教授
- 川原田 璋 先生 元 生活科学科 教授
- 横山 淳一 先生 元 日本語日本文学科 非常勤講師
- 副田 悦子 先生 元 初等部 教諭
- 渡辺 和子 先生 元 客員教授
- 内田 啓一 先生 元 歴史文化学科 教授
- 渡辺 弘一郎 先生 元 国文学科 教授

学内探検「9号館」

今年竣工した、本学で最も新しい「9号館」。正門から最も近く、ガラス張りの開放感溢れる校舎の出現により正門からの眺めも一新した。この校舎は、今年開設された



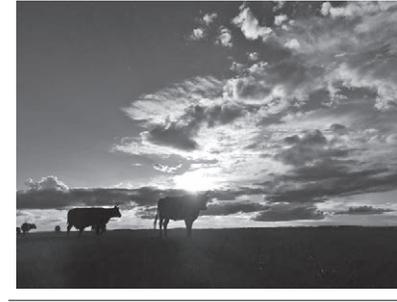
まずはじめに紹介するのは、地下にあるアリーナだ。バスケットコートが一面とれる体育施設で、大学の授業のほか、附属やBSTの授業等や、クラブ・サークル活動で使用している。地下といっても二つの壁面のガラス窓から光が入るため明るい印象である。一階には、食安全マネジメント学科の教授室やテストキッチン付き、〇名収容の教室や、様々な測定機器の置かれた演習室がある。また、一階の窓越しにアリーナを眺めることができる。二・三階には、普通教室二つの広さの実験室があ



り、プラスチック等のついた実験機器が載せられた机が並ぶ。教室の一隅には、ドラフトチャンバーがあり、吸うと危険な薬品を排気を行いながら取り扱うことができる。いずれの教室も、後方にはモニターが付いており、後ろの席からでも、理解しやすいよう配慮されている。三階のオープンスペースは、両学科の学生が利用していた。授業以外ではなかなか使用する機会はないが、9号館アリーナを使った全学科対象のイベント等があれば積極的に参加してみたいかがだろうか。
(学報委員 金井咲枝 齊藤美咲・行方麻里子 町田菜々花)

モンゴルでのボランティア体験

八月五日〜一八日まで、NPO法人 Goodi (The Global Organization Of Dreamers) が主催する、モンゴルでのボランティアワークキャンプに参加した。ワーク地エルデンツァガーンへは、首都ウランバートルからバ



スで向かうのだが、悪路に阻まれ半日後すつかり泥まみれになって到着した。今回のワークでは、現地の学校の体育館と外壁のペンキ塗り等を行った。村人とも協力し鮮やかなペンキを塗り進めたのだが、予定を立てて動

こうとするのは日本人だけで、自分の思いが空回りすることもある。そんな時に救われたのは、青く澄んだ空に幻想的な雲がひろがる雄大な風景や、夜になると目の前にはつきりと天の川を確認することができる絶景と、一緒に寝食を共にした仲間たちの笑顔であった。高層ビルと人に囲まれた生活を脱し、二週間ではあったが遊牧民の生活を体験し、仲間との絆を深め、自分についても考えることができた。自分がやりたいことを実現するために有意義な後期を送るよう努力したい。



7号館一階にある博物館は、平成六年四月一日に開館し、九月一六日に歴史博物館として東京都より博物館相当施設に指定された。展覧会は年に六回行われ、春と秋には学園での学びを深める様々なテーマで特別展を開催している。特別展の

案内頂いた。博物館の地下には二つの収蔵庫があり、コレクションが収められている。一般収蔵庫には、二代目理事長人見楠郎先生が収集したベルコレクションをはじめ、漆器類や漆関連資料、仮面や民具などが収蔵されている。その隣にある特別収蔵庫は、大きなダイヤル式の鍵が扉についており、庫内は一定の温湿度に保たれている。収蔵品のなかでも、よりデリケートで貴重な資料が収められていた。今回は、木製エレベーターを待つ時間

先生の研究室訪問 熱く歴史を語ろう

歴史文化学科准教授 松田 忍先生



歴史文化学科で日本近現代史を担当する松田先生にお話を伺った。授業から受ける「熱血」という印象そのままに、熱く語って下さった。

先生は、小学生の頃に大河ドラマや新田次郎の『武田信玄』をきっかけに歴史に興味を持つようになった。その後、東京大学文学部に進学され、専攻を決める際には少し迷いがあった。今先生からは想像出来ないが、当時は自分に自信がなかったそうだ。そこで史料の裏付けに基づいた確かな議論ができる点に魅力を感じ歴史学を選んだそうだ。

インタビュー中に卒論のテーマ選びのきっかけになった『農政運動史資料』という史料を見せていただいた。大正二二(一九三三年)に法改正された農会に関する史料である。法改正により、農業者は農会(農業者たちに経営の指導をする代わり、会費を徴収する)に、強制的に加入させられるようになった。比較的自由な大正時代なのに、農業者が経営指導を受けることを強制されたことに違和感を感じた先生は、農会法改正の意義を論じた卒論を皮切りに研究を進め、平成二四年には著書を出版した。近現代日本における生存の義務を論じている現在の研究にも繋がっているという。

研究生活で、行き詰まることはないのだろうかかと尋ねてみると、先生は次のように話して下さいました。「研究の軸が定まっていれば、直接的な史料は見つからなくても、間接的な史料から読み解くことが出来る。史料の読み方に決まりはなく、史料の引き出し方や繋ぎ方も様々で、集めた史料の中から一番面白いところで勝負することが楽しい」という。松田先生の

松田先生は語られた。松田先生同様、私たち自身も歴史文化学科で歴史を学んでいるわけだが、自分がいかに歴史を知らないかを痛感することがある。だからこそもっと知りたくなり、苦勞して解読した史料から得られた情報に喜びを感じる。グローバル化が進む現代においては、様々な国の人と関わる機会も多い。その時に、相手の国について理解するだけでなく、まず、自分の国の歴史と文化への理解が必要であると思う。他学科の学生の方にも、熱く語りあえるほど面白い歴史を改めて学んでほしい。

松田先生は語られた。松田先生同様、私たち自身も歴史文化学科で歴史を学んでいるわけだが、自分がいかに歴史を知らないかを痛感することがある。だからこそもっと知りたくなり、苦勞して解読した史料から得られた情報に喜びを感じる。グローバル化が進む現代においては、様々な国の人と関わる機会も多い。その時に、相手の国について理解するだけでなく、まず、自分の国の歴史と文化への理解が必要であると思う。他学科の学生の方にも、熱く語りあえるほど面白い歴史を改めて学んでほしい。

松田先生は語られた。松田先生同様、私たち自身も歴史文化学科で歴史を学んでいるわけだが、自分がいかに歴史を知らないかを痛感することがある。だからこそもっと知りたくなり、苦勞して解読した史料から得られた情報に喜びを感じる。グローバル化が進む現代においては、様々な国の人と関わる機会も多い。その時に、相手の国について理解するだけでなく、まず、自分の国の歴史と文化への理解が必要であると思う。他学科の学生の方にも、熱く語りあえるほど面白い歴史を改めて学んでほしい。

松田先生は語られた。松田先生同様、私たち自身も歴史文化学科で歴史を学んでいるわけだが、自分がいかに歴史を知らないかを痛感することがある。だからこそもっと知りたくなり、苦勞して解読した史料から得られた情報に喜びを感じる。グローバル化が進む現代においては、様々な国の人と関わる機会も多い。その時に、相手の国について理解するだけでなく、まず、自分の国の歴史と文化への理解が必要であると思う。他学科の学生の方にも、熱く語りあえるほど面白い歴史を改めて学んでほしい。

教職員に聴く! 光葉博物館

7号館一階にある博物館は、平成六年四月一日に開館し、九月一六日に歴史博物館として東京都より博物館相当施設に指定された。展覧会は年に六回行われ、春と秋には学園での学びを深める様々なテーマで特別展を開催している。特別展の

案内頂いた。博物館の地下には二つの収蔵庫があり、コレクションが収められている。一般収蔵庫には、二代目理事長人見楠郎先生が収集したベルコレクションをはじめ、漆器類や漆関連資料、仮面や民具などが収蔵されている。その隣にある特別収蔵庫は、大きなダイヤル式の鍵が扉についており、庫内は一定の温湿度に保たれている。収蔵品のなかでも、よりデリケートで貴重な資料が収められていた。今回は、木製エレベーターを待つ時間

案内頂いた。博物館の地下には二つの収蔵庫があり、コレクションが収められている。一般収蔵庫には、二代目理事長人見楠郎先生が収集したベルコレクションをはじめ、漆器類や漆関連資料、仮面や民具などが収蔵されている。その隣にある特別収蔵庫は、大きなダイヤル式の鍵が扉についており、庫内は一定の温湿度に保たれている。収蔵品のなかでも、よりデリケートで貴重な資料が収められていた。今回は、木製エレベーターを待つ時間

案内頂いた。博物館の地下には二つの収蔵庫があり、コレクションが収められている。一般収蔵庫には、二代目理事長人見楠郎先生が収集したベルコレクションをはじめ、漆器類や漆関連資料、仮面や民具などが収蔵されている。その隣にある特別収蔵庫は、大きなダイヤル式の鍵が扉についており、庫内は一定の温湿度に保たれている。収蔵品のなかでも、よりデリケートで貴重な資料が収められていた。今回は、木製エレベーターを待つ時間

LIVES TOKYOボランティアで参加

九月一〇日に東京ミツドタウンで行われたNPO法人ハンズオン東京が主催するLIVES TOKYOボランティア活動に参加した。同活動は、障がいなど多様な個性を持つ人々が、皆と一緒に仕事や食事をし、楽しく笑い

案内頂いた。博物館の地下には二つの収蔵庫があり、コレクションが収められている。一般収蔵庫には、二代目理事長人見楠郎先生が収集したベルコレクションをはじめ、漆器類や漆関連資料、仮面や民具などが収蔵されている。その隣にある特別収蔵庫は、大きなダイヤル式の鍵が扉についており、庫内は一定の温湿度に保たれている。収蔵品のなかでも、よりデリケートで貴重な資料が収められていた。今回は、木製エレベーターを待つ時間



案内頂いた。博物館の地下には二つの収蔵庫があり、コレクションが収められている。一般収蔵庫には、二代目理事長人見楠郎先生が収集したベルコレクションをはじめ、漆器類や漆関連資料、仮面や民具などが収蔵されている。その隣にある特別収蔵庫は、大きなダイヤル式の鍵が扉についており、庫内は一定の温湿度に保たれている。収蔵品のなかでも、よりデリケートで貴重な資料が収められていた。今回は、木製エレベーターを待つ時間

案内頂いた。博物館の地下には二つの収蔵庫があり、コレクションが収められている。一般収蔵庫には、二代目理事長人見楠郎先生が収集したベルコレクションをはじめ、漆器類や漆関連資料、仮面や民具などが収蔵されている。その隣にある特別収蔵庫は、大きなダイヤル式の鍵が扉についており、庫内は一定の温湿度に保たれている。収蔵品のなかでも、よりデリケートで貴重な資料が収められていた。今回は、木製エレベーターを待つ時間

初等教育学科 館山プログラムを実施

八月二一日〜二五日まで五日間、初等教育学科三年生三九名が、館山市教育委員会と共催の「館山プログラム」を実施した。望秀海浜学寮で小学生向けの「夏休みワクワク・ウキウキ教室」を開催するもので、準備から終了までのすべてを本館山市内の三年生から六年生の児童が多数参加してくれた。



教室一日目は、運動会や絵本作り、ダイバー(浮沈子作り)などの「ワクワク教室」を行った。二日目

からは学年ごとに分かれて、学生が力を傾けて準備した「ウキウキ教室」を開講。三年生はピタゴラスイッチの装置作りや、都道府県についての勉強、四年生は食塩せっけんや、フォトフレームの作成、五年生は英語の授業や、自分たちの小学校を紹介する活動に取り組み、六年生は玉ねぎの皮染めや、空気砲作りを楽しんだ。どの教室の子どもたちも生き生きと授業に参加し、充実した時間を過ごしてもらえたのではと思う。六月からの準備も学寮での実施も大変だったが、教師への第一歩となる、得るところの多い五日間となった。

(初教 酒井萌)

もうすぐ秋桜祭!

二月二二日(土・日)の両日、二五回目を迎える秋桜祭をいよいよ開催する。今年の秋桜祭には、昨年よりも多くのクラブ・サークル・有志の「輝」で溢れる秋桜祭にしたいという思いが込められている。テーマに込めた思いを実現するために、私たち秋桜祭実行委員会一四一名の学生は、当日まで全力で準備を進めていく。



学生の皆さんには、ぜひ、ご家族や友人を誘って会場に足を運んでいただき、輝く秋空のもと、秋桜祭を存分に楽しんでほしい。

(秋桜祭実行委員長 岩崎佑衣)

ENVO(学生ボランティアコーディネーター) 夏のワークキャンプ——風の学校

◆東日本大震災被災地の人びとに学ぶ女川ワークキャンプ
今年で七回目を迎える女川ワークキャンプは九月一日から四泊五日で二九名の学生が活動した。昨年に引き続き参加した私が今回リーダーを務め、目標を「感じる・学ぶ・伝える」とした。交流し



た地域の方の中には、覚えていてくださる方もおり、自分が来ただけでも喜んでくださる方や、活動を応援して下さる方の存在に、心が温かくなった。継続して同地を訪れることで、復興の進

み具合や町の変化が感じられ、継続の重要性を感じた。東京での学生生活の中でも、自分にできること

◆都市と農村を結ぶ伊那ワークキャンプ

九月一日〜五日に実施した伊那ワークキャンプは、今年で五回目となる。はじめて参加した私の参加理由は、いつもの場所を離れ、新しい人や場所、価値観と出会うことであつた。

「高遠の町ぶらり」では伊那の歴史を現地ですぐ、地元の方との会話で人々の温かさに触れた。学校に馴染めない子どもと自給自足を目指して生活しているフリーキッズ



を考え、今後参加者全員で女川町と世田谷をつなぐ「架け橋」になっていきたい。(ENVO 原田萌々香)

ゆつたりと過ごした二日間は、時間に対する考えをはじめ、多様な考え方に会う二日間となった。今後は私が感じた伊那の魅力をもっとの人に伝えられるよう、伊那と世田谷を結ぶ活動をしていきたい。(ENVO 佐久間彩子)

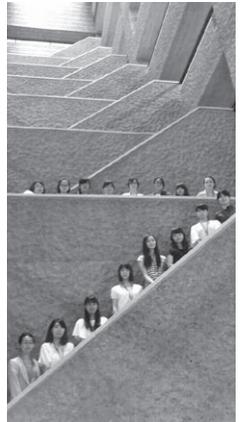


行事予定

- 11月 1日(水) 【女教】重太みゆき氏「インプレッショントレーニング®～印象力で夢をかなえる～」(15:30)
生活機構学専攻博士論文中間発表会(16:00)
- 11月 7日(火) 金曜代替日
【文研】ミュージカル『アンデルセン』(18:15)
- 11月 8日(水) 墓前祭(11:00)、【女教】古屋典子氏「シンフォニックな食卓から世界を愉しむ」ーリズム音楽の名手 セネガル太鼓奏者を誘ってー(15:30)
- 11月10日(金) 秋桜祭準備(1日休講)
- 11月11日(土) 秋桜祭(1日休講)
- 11月12日(日) 秋桜祭
- 11月13日(月) 秋桜祭片付け(1日休講)
- 11月14日(火) 【文研】ウィーン楽友協会合唱団(18:15)
- 11月15日(水) 【女教】野口健氏「富士山から日本を変える」(15:30)
- 11月17日(金) 第86回メンターフェア(12:00)
- 11月18日(土) 第53回メンターカフェ「メディアの世界で働く！」(13:30)
- 11月19日(日) 指定校制・公募制・光葉同窓会推薦入学試験
- 11月22日(水) 【女教】永井陽右氏「新しい紛争解決～イスラム過激派組織を止めるために必要なこと～」(15:30)
- 11月25日(土) インターンシップ報告会(13:00)
- 11月28日(火) 第87回メンターフェア(12:00)
- 11月29日(水) SPI能力・一般常識模擬試験 (3年生対象 15:00)

choco-talk

まだ暑さの続く8月4日、国立国会図書館見学に参加させていただきました。見学者控え室に荷物を置き、担当の職員の方に続いて図書館に入ると、そこにはこれまで知っている図書館とは違った光景が広がっていた。国会図書館では、大半の蔵書は書庫にあり、さらに館外貸し出しも行われていないため、見えるところに本はなく、全て閲覧の請求をすることになる。



国立国会図書館は日本で唯一の国立図書館であり、納本制度によって国内全ての出版物が図書はもちろのこと、新聞から楽譜に至るまで収集、保存されている。また、「国会」図書館としての役割も果たしており、立法機関の一部として国政課題の調査や法案の分析なども行っている。

今回の見学では、利用者が立ち入ることのできない地下8階まである地下書庫等を案内していただいた。書庫は、より多くの資料を保存するため天井は低く、そこに電動書架がずらりと並べられている。国会図書館では資料の内容による選択はせず、出版物の全てを保管している。一見些末に思われる資料でも、時が経過し、また膨大な資料の集積でその時代が見えてくることもある。そのため、資料の利用と保存を両立させていくことが大切なのだという、職員の方の言葉が強く印象に残った。

日頃、利用する本学図書館だけではなく、是非一度国立国会図書館に足を運んでみてはいかがだろうか。これまで知らなかった知識や情報に出会えるかもしれない。(学報委員 加藤すみれ)